



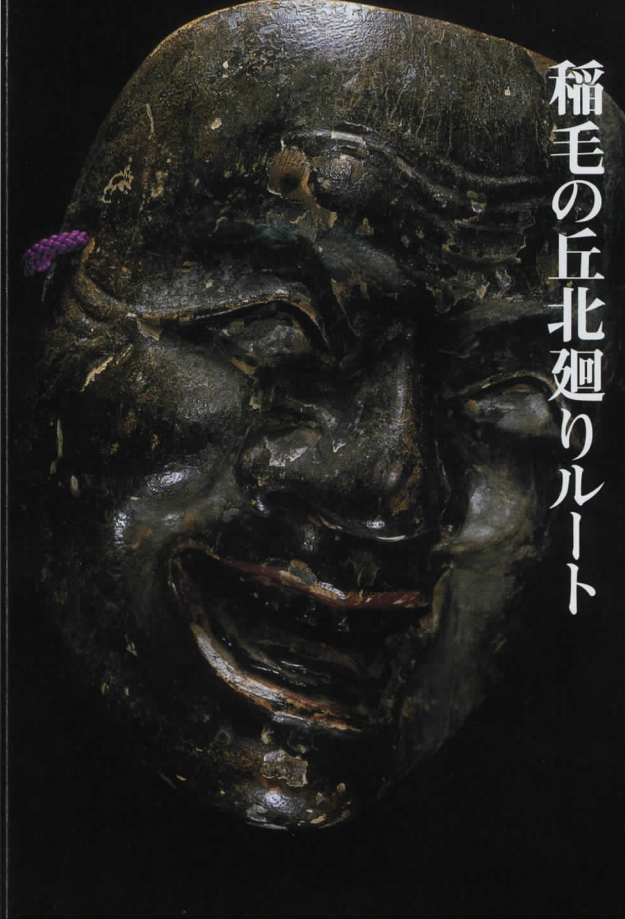
川崎歴史ガイド

# 稲毛の丘

ルート



# 稲毛の丘北廻りルート



## 豊臣秀吉の禁制

この木札（禁制）は、天正18年（1590）に、豊臣秀吉が後北条氏との戦の際に立てたものです。禁制は、自軍に対して「乱暴狼藉」、「放火」等の行為を禁止し、人々を保護し、民衆を安心させる目的がありました。対象となった「武蔵国稲毛郡作延郷、長尾村、平土橋村」はそれぞれ、現在の高津区、多摩区、宮前区にあたります。「武蔵国稲毛郡」は古代・中世の稲毛荘に由来し、江戸時代の地誌『新編武蔵風土記稿』では、稲毛領という地域が記されています。「平土橋村（江戸時代は平村）」

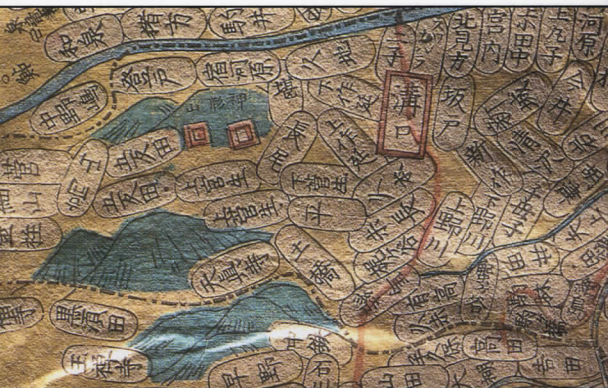
の白幡八幡大神は「新編武蔵風土記稿」によると「稲毛総社八幡宮」となっており、稲毛領という地域で中心的な位置にあったことが分かります。

また、地域名で戦国時代の「郷」と江戸時代の「村」が併用して用いられる点は、木札が立てられた天正18年が、時代の過渡期であったことを意味しており興味深いものがあります。

雪の土橋竹林



秀吉禁制札世田谷区立郷土資料館蔵



武蔵國全圖 安政3年(1856) (川崎市教育委員会地名資料室蔵)

白幡八幡大神に伝わる天児屋根命の面

宮前区の北部と多摩区の南側、高津区の西側の一部を含むこの地域は、古くからの歴史があり、神奈川県立東高根森林公園には自然林に近い貴重なシラカシ林が現存します。また、縄文時代から古墳時代にかけての遺跡も数多く発見されています。そして、多摩川とともに自然の要害であった多摩丘陵を含むこの地域を鎌倉幕府は防衛の拠点として重要視しました。後北条時代になると、多摩川右岸の中・下流域一帯は稲毛（川崎区・多摩区、横浜市鶴見区）と呼ばれ、江戸時代には稲毛領（幸区・麻生区、横浜・港北区）に属しました。稲毛という地域は古代・中世の稲毛荘（中原区宮内を中心とする一帯）に由来すると考えられていますが、起源ははっきりしていません。江戸時代の地誌『新編武蔵風土記稿』によると、平村（宮前区）の白幡八幡大神は「稲毛総社八幡宮」となっており、稲毛領の中心的な地域であったことを示しています。

この稲毛の丘北廻りルートは、初山の獅子舞、稲毛西国三十三ヶ所札所の巡礼、等覚院の不動尊巡行等、多くの民俗行事を今日に伝えています。近年は開発により、都市化が進んでいますが、保護された自然とともに、神社や寺から歴史と民俗の伝統を垣間見ることができま



マトー神事の準備



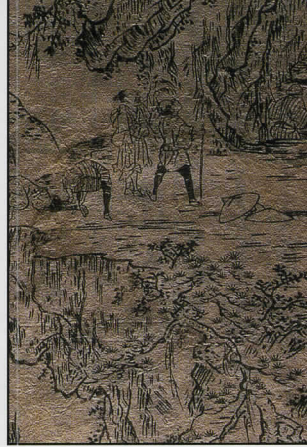
長尾神社のマトー

祭事の際には、長尾の地域が6組に分かれ、年番で中心となります。射手は、年番組の中から7歳までの男児2名が勤めますが、実際は年番から選ばれた大人が射手となつて弓を射ます。

マトーの用具は、年番の組が準備します。的は葦をつぶしてむしろ状に編んだものに和紙をはったもの。弓は桃の木とされていますが、入手難で梅の木を用います。弦は麻、矢はしの竹です。的の裏には鬼の字を書き、矢が鬼の字を貫くとその年は豊作といわれます。

## 長尾神社のマトー

長尾には、丘陵の谷戸の神木長尾の赤城社と、低地の河内長尾の五所権現社の2つの鎮守がありました。両神社は明治42年に合祀され、長尾神社となりましたが、長尾神社には毎年1月7日(または第2日曜日)に、的を射つて1年の無病息災、農事無事を祈願するマトーという行事があります。



江戸名所図会 川崎市教育委員会地名資料室蔵の大師穴の図。境内裏山の斜面には、大師穴と呼ばれる横穴の墳墓があります。危険なため現在は立ち入りできませんが江戸時代には物見遊山の対象でした。



大師穴

## 妙楽寺と大師穴

鎌倉時代初め、長尾の辺りには長尾寺または威光寺と称する源氏代々の祈禱寺がありました。この寺の名は『吾妻鏡』にもしばしば登場し、戦勝の祈禱を担い、寺領の役負担が免除され、治承4年(1180)11月には、源頼朝が弟の阿野全成(今若丸)を院主に任命する等、名刹として知られていましたが、詳しい歴史や所在地については不明でした。

しかし、近年の調査で、妙楽寺の薬師三尊(川崎市重要歴史記念物)のうち、日光菩薩像の天文14年(1545)

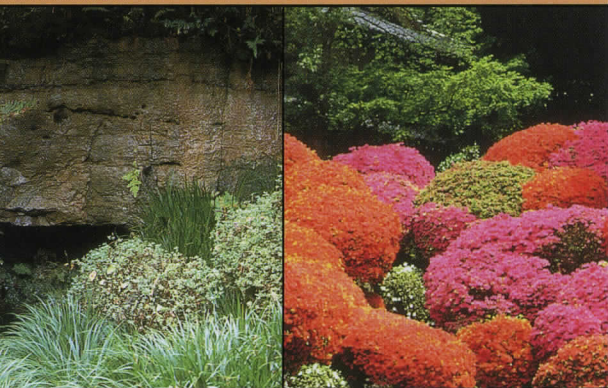
の墨書銘に「長尾山威光寺」の記述が発見され、妙楽寺がその後身である可能性が強まりました。妙楽寺の位置する多摩丘陵は多摩川とともに、鎌倉防衛の北の要として、重要視されていたのです。

天台宗長尾山妙楽寺は、現在、あじさい寺として親しまれ、あじさいが咲く季節には多くの人が訪れる名所となっています。

上 妙楽寺の胎内札  
下 妙楽寺のあじさい

妙楽寺薬師如来坐像





# 五所塚

五所塚第一公園には直径4メートル、高さ2メートル程の塚が5つ南北に並んでいます。地元では古くから五所塚と呼ばれており、外観が古墳時代の高塚古墳に似ていることから、江戸時代の地誌『新編武蔵風土記稿』では、長尾景虎および従者の墳墓であると記されています。

しかし、実際は村境や尾根筋に築かれた「境」信仰の塚と考えられています。「境」信仰とは、隣村で疫病（まひびょう）が流行した時等、自分達の村に被害が及ばないように様々な祭祀を行ったもので、

村の防衛の意味も持っていました。丘陵の頂部に位置する五所塚からは、丘陵全体を広く見渡すことができ、「境」信仰によってつくられたものと考えられます。

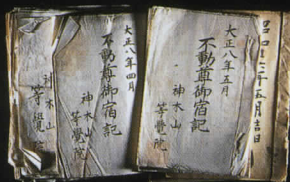


## 神木山等覚院

天台宗神木山等覚院は『新編武蔵風土記稿』に「天台宗深大寺の門徒（末寺）神木山長徳寺と号す、」とあります。沿革は不詳ですが、毎年4月末頃には山門からお堂への石段の両脇につつじの花が咲きほこり、多くの人々が訪れるつつじ寺として有名です。

この等覚院では「不動尊の巡行」という珍しい行事がいまも続いています。火難よけとして信仰された巡行の起源は万延年中（1860〜1）と推測されます。不動尊が世話人の家々をまわり、近所の人々がさい銭や米等の供え

物を持って参拝し、お札をいただく習わしです。昔は毎月行われましたが、いまは4月と5月のみとなりました。月初めに巡行に出た不動尊は27日の送り込みで寺へ戻り、縁日の28日に護摩（ごま）がたかれます。昭和の初め頃を知る人の話では、参拝の時にあられ等のお菓子をもらえるのが、子供の楽しみだったそうです。

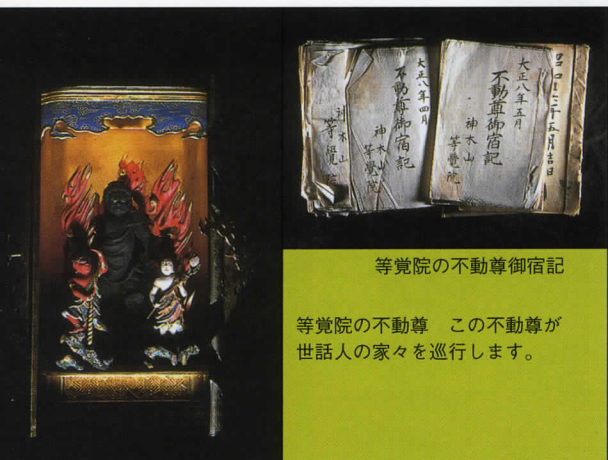


等覚院の不動尊御宿記

等覚院の不動尊 この不動尊が世話人の家々を巡行します。



桜の頃



# 下原遺跡と東高根森林公園

昭和40、41年に東名高速道路建設の事前調査として発掘された下原遺跡は現在の多摩区長尾7丁目付近。

ここには縄文時代中期より晩期の集落跡があり、住居跡と骨塚が確認されました。土器や石罌等の道具類、土偶、土版等のまじない用具、石鏃(やじり)等が発掘されています。また、弥生時代、古墳時代初頭の遺構もあり、南東約200メートルの東高根遺跡との関連性も指摘されています。

昭和45年の発掘予備調査で、弥生時代後期の3世紀から古代国家の形態が

整う8世紀頃までの集落跡が確認された東高根遺跡(神奈川県指定史跡)。遺跡の周りのシラカシ林は自然林に近く貴重なため、遺跡とともに保存され、東高根森林公園がつけられました。

シラカシ林は関東内陸部の平野・丘陵・低山地の自然を残し、神奈川県指定天然記念物です。農耕による伐採で、シラカシ林はクスギ・コナラ等の雑木林となり、雑木林は多摩丘陵周辺の一般的な森林植生になりましたが、いまでは開発により、シラカシ林、雑木林の両方が貴重な自然となっています。



東泉寺境内

東高根森林公園

遺跡調査をした頃の東高根(昭和45年)



青いシラカシの実

東高根の水源地(昭和45年)



下原遺跡の石器(川崎市市民ミュージアム寄託資料 吉澤宏氏・沼崎陽氏所有)

## 東泉寺と稲毛西国三十三ヶ所札所

稲毛西国三十三ヶ所札所は江戸時代の宝暦年間(1751~64)に、稲毛領につくられました。これは平村名主、山田平七が、西国三十三ヶ所の観音霊場になぞらえたのが始まりです。

平七がつくった巡礼歌には、江戸から霊場への距離が記され、江戸からの参詣も想定されています。江戸時代後期は物見遊山が流行し、川崎北部にも人々が訪れました。巡礼は12年に一度の午年の4月に行われ、堂に安置された観音像が開帳されます。巡礼者は、心経や観音経を33巻筆写して各霊場に

奉納し、受領証として半紙に宝印を受けます。札所とは各霊場で札を納めていくことによりです。

曹洞宗泰平山東泉寺は、第33番札所。東泉寺壇徒総代の山田平七が霊場設立の大願成就の喜びで、東泉寺を札止め第33番霊場としました。

巡礼はいまでも行われ、開帳の時期は観光バス等で多くの人が訪れます。



# 初山の獅子舞

10月最初の日曜日、菅生神社の例祭で行われる初山の獅子舞（川崎市重要習俗技艺）。一人立獅子舞で、先導の金棒引きと天狗の面の幣負（舞の道化を勤める者）とともに、町内を練り歩いて境内へ入ります。獅子は、頭部に剣状の角がある剣獅子、頭部中央に宝珠がある玉獅子、頭部左右にねじり状の角がある巻獅子の3匹。玉獅子が雌獅子で残りは雄獅子です。クライマックスは雌獅子隠しといひ、巻獅子と仲の良い玉獅子が、剣獅子に連れ去られます。巻獅子は剣獅子と戦い、一度は破

# 白幡八幡大神

白幡八幡大神に残る民俗芸能の禰宜舞（川崎市重要習俗技艺）。7月20日・9月第3日曜日に舞われます。舞は口伝、一子相伝で神職小泉家に伝わります。禰宜とは神職の一つで、神職が舞うことに名前は由来します。禰宜舞の起源は不詳ですが「新編武蔵風土記稿」に小泉氏と神楽の記述があり、江戸時代後期には存在したと考えられます。また、禰宜舞は白幡八幡のみでなく、東京を含む川崎市内の神社でも奉納されています。

れますが、二度目に勝利して剣獅子とも仲直りするストーリーです。獅子と幣負を勤める4名は、中学生が演じ、引退した者が後輩の指導にあたります。一人立獅子舞は二人立獅子舞より歴史が新しく、16世紀頃から行われ、悪霊払い・悪霊鎮めの意味がありました。初山の獅子舞には江戸時代初期と思われる獅子頭（市重要郷土資料）があり、素朴で地を這う舞は古い形式を残しています。

3月初卯の日に白幡八幡大神で行われる祭りの初卯祭り。起源は享保7年（1722）の記録が最古で、八幡講が4組に分かれて開催にあたります。講の射手は稚児で、5歳未満の長男2名が選ばれますが、実際は介添が射手を勤めます。初卯祭りの道具は、小的、大的、弓矢、注連で、4組が分担して作ります。特に注連は藁でつくった大蛇で、石鳥居に結びつけて奉納され、7月の夏祭りまで飾りつけられます。



白幡八幡の初卯祭 藁大蛇は孟宗竹を芯にして、眼は里芋、舌はにんじんを用います。昭和40年代前半に都市化のため、藁大蛇はつからなくなりましたが、49年に復活しました。

白幡八幡近くの梅林

菅生神社の獅子舞

祭礼の日、参道





しばられ松

## しばられ松

高津区上作延の向原にしばり松とも  
しばられ松ともいう聖松があります。

昔、相模の巡礼者が諸国巡礼の時、  
百日せきで苦しみ、ここで死んだとい  
い、近郷の人は、子供が百日せきにか  
かると素薬すわくで左繩ひだりなわを編んで聖松を縛り、  
小さな願いは小枝を縛り願をかけたそ  
うです。願いが叶うと右繩みぎなわを松に縛っ  
て願ほじきをしました。

また、ある泥棒がこの松の近くに逃  
げ込んだ時、一面の田で隠れる所がな  
く、松の木を真似て立っていました。  
これを見た役人は哀れんで、隣の松に

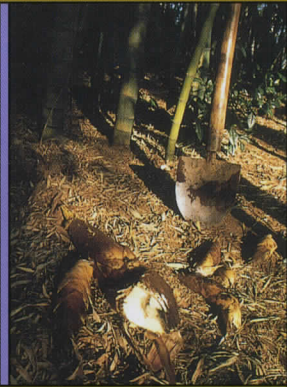
荒繩をかけて行つてしまいました。村  
人が翌日行つてみると、一本松の腰の  
まわりに繩が巻いてあり、以後、風邪  
をひいた時等は、左繩で松を縛つて、  
甘酒をあげて直してほしいと祈つたそ  
うです。

しばられ松は行き倒れになった巡礼  
者を葬つた場所ともいい、夜には松が  
蛇になって農作物を荒らし回るので、  
偉いお坊さんが縛つたともいい、多く  
の民話がいまに伝えられています。

# 稲毛の丘南廻りルート



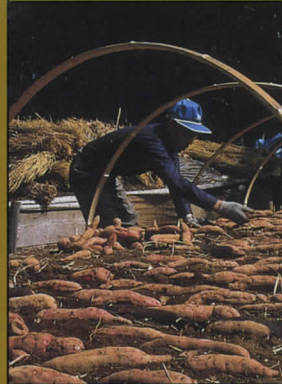
田植え



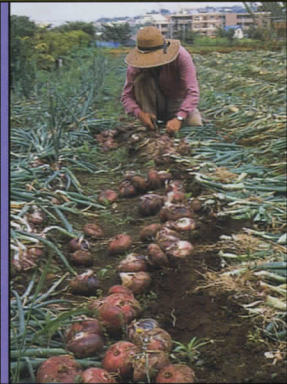
タケノコ掘り



出荷する野菜を束ねる



甘藷の苗床



玉ねぎの収穫



穀物等を干すムシロを編む

多摩丘陵に連なる下末吉台地が広がる宮前区の南半部。台地に小さな谷戸が入り込み、起伏に富む複雑な地形のため、この辺りでは、古くから麦等の畑作農業が盛んでした。明治時代以降は、東京に近い利点を生かして、都市からの需要に積極的に対応し、花や野菜づくり等、新たな農作物が導入されました。梶ヶ谷のねぎ、馬絹の花、有馬の栗、土橋のタケクコ等がよく知られています。

太平洋戦争の頃になると、梶ヶ谷(高津区)から宮崎(宮前区)にかけての広大な地域が、軍用地として接収されたり、食糧増産のため栗林等が伐採され、畑に変わる等、戦争による生活への影響は多大なものがありました。戦後は、花づくりや野菜づくりに加え、植木生産が新たな試みとして始まります。しかし、昭和41年の田園都市線溝の口(高津区)〜長津田(横浜市区)間の開業や、東名高速道路の開通等により、宮前区内は宅地開発が急速に進み、農業も都市近郊型への転換が図られることとなりました。

現在、都市化が進み、大きく変貌しつつあるこの地域ですが、地元には江戸時代より続く庚申講や護摩たきの講等の民俗行事が伝えられ、また、残された自然景観の中にかつての農村的な風景をみることもできます。



# 泉福寺の花供養

天台宗平楽山泉福寺境内には、花づくりの盛んな馬絹ならではの花卉供養塔があります。この供養塔は、馬絹花卉生産組合が建立したもので、毎年8月17日には花に感謝し、その霊を慰める祭りが行われます。

泉福寺絵馬「相撲」

また、江戸時代の嘉永7年（1854）に作成された薬師会図には、泉福寺境内と薬師堂の薬師如来と多くの参詣者で、賑わっている様子が描かれています。この他、安政4年（1857）作の境内相撲図の絵馬には奉納相撲の情景が描かれ、当時の信仰と風物が分

かる貴重な資料となっています。薬師会図と境内相撲図は、川崎市重要歴史記念物に指定されています。



泉福寺薬師会図 泥の中から薬師が出現した状況が描かれています。



# 馬絹の花づくり

馬絹における花づくりは、江戸時代末期にさかのぼるといわれます。明治を経て大正時代を迎えると花卉栽培は盛んとなり、大正10年には馬絹花卉生産組合が設立されました。

当時の組合員は百名以上だったとい、馬絹の花づくりは、梅、桃、櫻等の枝物の生産が有名で、特に「馬絹かわり」という桃は毎年、花枝を収穫できるよう地元で改良された品種で、高い評判を得ました。

花は、麦ヌカ等の発酵熱で温められたムロという地下室につぼみの状態で

入れられました。正月用の梅は12月に、雛祭りの桃は2月、櫻は3月にムロの中にいれられ、開花時期を早めて市場に出荷されましたが、この技術は大正の頃から行われています。

近年は地上のオカムロも電熱を利用して使われるようになり、ビニールハウスの普及もあつて、きつい仕事の地下ムロは少なくなりました。

ミツマタの花



吉田家のムロ  
枝折の技術で枝を束ねます。



花ノ台の花畑



冬になると椿の花に彩られる不動堂。かつては、その前の崖に滝が流れて、村人の水垢離場であったとされ、江戸時代中期の石造不動尊も現存しています。堂内では、五穀豊穡を祈願する護摩たきの講が春と夏の年2回行われます。講員は農家で構成され、野菜等を供え、家内安全、家運長久、交通安全も祈願します。終了後は菓子を食べ、酒を飲んで憩いの場となります。近年は農家を止めた講員の増加等、時代の変化がみられますが、新しく土地にきた人を

## 有馬不動尊の護摩たき

講に入れない等、伝統も守られています。

また、春は御獄講、夏は大山講が行われ、代参者がその年の収穫状況を占った作柄占いも面白い、護摩たきの際に配ります。不動堂は地域の農業と結びついた信仰の場として息づいています。

お札を配る



有馬不動の護摩たき

有馬不動の椿



作柄占い



数珠回し念佛講 丘陵の各地域で行われています。



尾幡家が宿

庚申講の名簿

江戸時代、大山街道から三ツ又踏状に集落への道があり、三ツ又と呼ばれたのが宮崎3丁目付近。ここには、庚申堂がありました。昔は、人の中に虫がいて、60日ごとの庚申の日になると、虫が天の神にその人の罪を告げに行くと思われていました。そこで人々は、虫が天に行かないように庚申の日には寝ないでお祭りをしたのです。また、街道を通る人々は、道中の安全と健脚を祈願して、絵馬やわらじを奉納したといわれています。明治35年頃まで、相模川でとれた鮎を運ぶ道として大山

## 三ツ又の庚申様

街道は利用され、夜遅く相模川を出た人々は朝早く庚申堂の所で休み、ここで身支度を整え直して道中の安全を祈願しました。

太平洋戦争中に陸軍の演習用地接收のため、当時ここに住んでいた人々は、野川近くへ移住を余儀なくされ、大山街道沿いにあった庚申様も人々とともに現在の地(宮前休日急患診療所前)に移っています。

人々が集まる講は、他に念仏講等、いくつかがいまも行われています。

# 野菜畑から植木畑へ

昭和30年代から盛んになった宮前の植木栽培。この時期、多摩丘陵周辺は住宅地の開発が行われ、都市化が大きく進みましたが、これに伴い、植木畑は緑の供給地として、地域になくなくてはならない存在となりました。また、都市化の波は庭園樹、緑化樹に対する膨大な需要を生み、植木栽培を導入する農家が増加し始めました。宮前の植木栽培は、都市化に対する緑化樹と個人に対する庭園樹の両方の需要に応じています。

浄土真宗有間山長善寺では、毎年3

月の彼岸過ぎに植木の供養祭が生産組合の人々によって行われています。



長善寺の植木供養で団子を焼く



植木畑



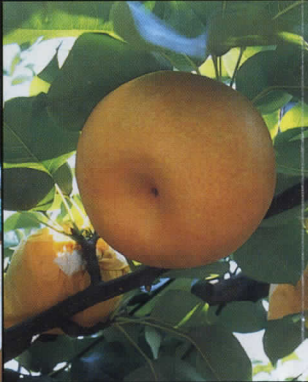
宮前、春の畑



梨の花



梨の販売



梨の実

## 有馬の梨づくり

有馬一帯は栗の生産地として有名で、オサヤや大正早生といった早生種の栽培が行われていました。しかし、太平洋戦争中に食糧増産のための伐採や戦後に大発生した害虫「クリタマバチ」で壊滅的打撃をうけ、名物は消えてしまいました。

一方、明治以降、長十郎梨の登場によって、大師河原（川崎区）を中心に盛んになった梨づくりは、多摩川に沿って生産地が北上し、現在も多摩川梨の農家が市の北西部に続いています。昭和30年代、有馬の人々は稲城（東京都

栗の花



から梨を移植し、改良を重ねて台地の梨の栽培に成功しました。現在は幸水や豊水といった品種の栽培が行われていますが、長十郎も人工授粉の花粉用に残されているそうです。また、梨とともにメロンや蔬菜の生産も盛んです。

宮前メロン

## ◎参考文献

川崎市史 通史編1(自然環境 原始 古代・中世)、通史編2(近世)、通史編4下(現代 産業・経済)、別編 民俗、資料編1(考古 文献 美術工芸) ●川崎市 ■昭和63年、平成6年、9年、平成3年、5年  
 世田谷区立郷土資料館 資料館だよりNo.16 ●世田谷区立郷土資料館 ■平成4年  
 川崎市文化財調査集録 2、6、7、9、12、23、25、27集 ●川崎市教育委員会 ■昭和41年、45年、47年、49年、52年、63年、平成1年、4年  
 川崎歴史ガイド 東海道と大師道、中原街道、津久井道と樹形城址 ●財団法人川崎市文化財団 ■昭和58年、59年、60年  
 川崎市文化財図鑑 ●川崎市教育委員会 ■平成4年  
 かわさき文化財読本 ●川崎市教育委員会 ■平成3年  
 関東三十六不動霊場 ●関東三十六不動霊場会 ■昭和61年  
 新編武蔵風土記稿 第3巻 ●雄山閣 ■平成8年  
 都市周辺の地方史 ●地方史研究協議会 ■雄山閣 ・平成2年  
 準西国稻毛三十三所 観音霊場札所めぐり ●観音霊場札所会  
 川崎研究 第15号 ●川崎郷土研究会 ■昭和52年  
 生きている風土 かわさきの民俗 ●白井禄郎 ■多摩川新聞社 ・平成7年  
 川崎歴史散歩 みやざきの里 ●加藤善清 ■昭和59年  
 かわさき散歩—花と歴史をたづねて— ●川崎市総合文化団体連絡会 ■昭和55年  
 川崎の民話と伝説 ●萩坂昇 ■多摩川新聞社 ・平成5年  
 多摩川梨もぎとり連合会35年のあゆみ ●多摩川梨もぎとり連合会35周年記念誌編集委員会 ■川崎市多摩川梨もぎとり連合会 ・平成8年

## ◎資料収集協力者

川崎市教育委員会地名資料室 白幡八幡大神  
 鈴木恕(長尾神社氏子総代) 世田谷区立郷土資料館  
 セレサ川崎農業協同組合宮前支店 等覚院  
 持田新作(有馬不動尊不動講)  
 矢澤博孝(初山獅子舞保存会) 吉澤宏(敬称略)

## ●川崎歴史ガイドのシンボル・マーク

このシンボル・マークは、古代の鏡を現わしています。歴史は私たちの祖先が作りだしたのですが、それを再び映しだすのが、川崎歴史ガイド計画です。シンボル・マークは、歴史を甦らせ、映しだす鏡です。ガイド用の“柱”の上に、それが必ずついています。

ガイドパネルデザイン=栗津 潔+清水まこと  
 Design=川村 易 Photo=小池 汪

## 公益財団法人 川崎市文化財団

〒210-0007 川崎市川崎区駅前本町12-1タワーパーク3階

☎044-222-8821 FAX044-222-8817 頒価110円

印刷=大日本印刷株式会社 無断転載を禁ず 平成11年3月31日発行



## 影取大蛇

その昔、丘陵の一角に大蛇の棲む池があったといひます。村の女・子供は池の淵を通つて山へ栗拾いやフキのとうを摘みに行きましたが、水面に映つた影を大蛇に吞まれると死ぬと言ひ伝えられ、村人は山へ行こうとはしませんでした。

村役人の茂右衛門は言ひ伝えを否定しましたが、村人はこれを信じませんでした。しかし、茂右衛門の娘、おせんが唯一人信じて、父親の制止を振り切つて、真実を確かめに池へと向かいました。池へ着いたおせんを待ってい

たのは、恐ろしい大蛇でした。おせんとは大蛇は死闘を繰り広げ、一夜が明けましたが、おせんは帰つてきませんでした。その後、茂右衛門は池を埋め、女・子供も山へ行くことができるようになりました。

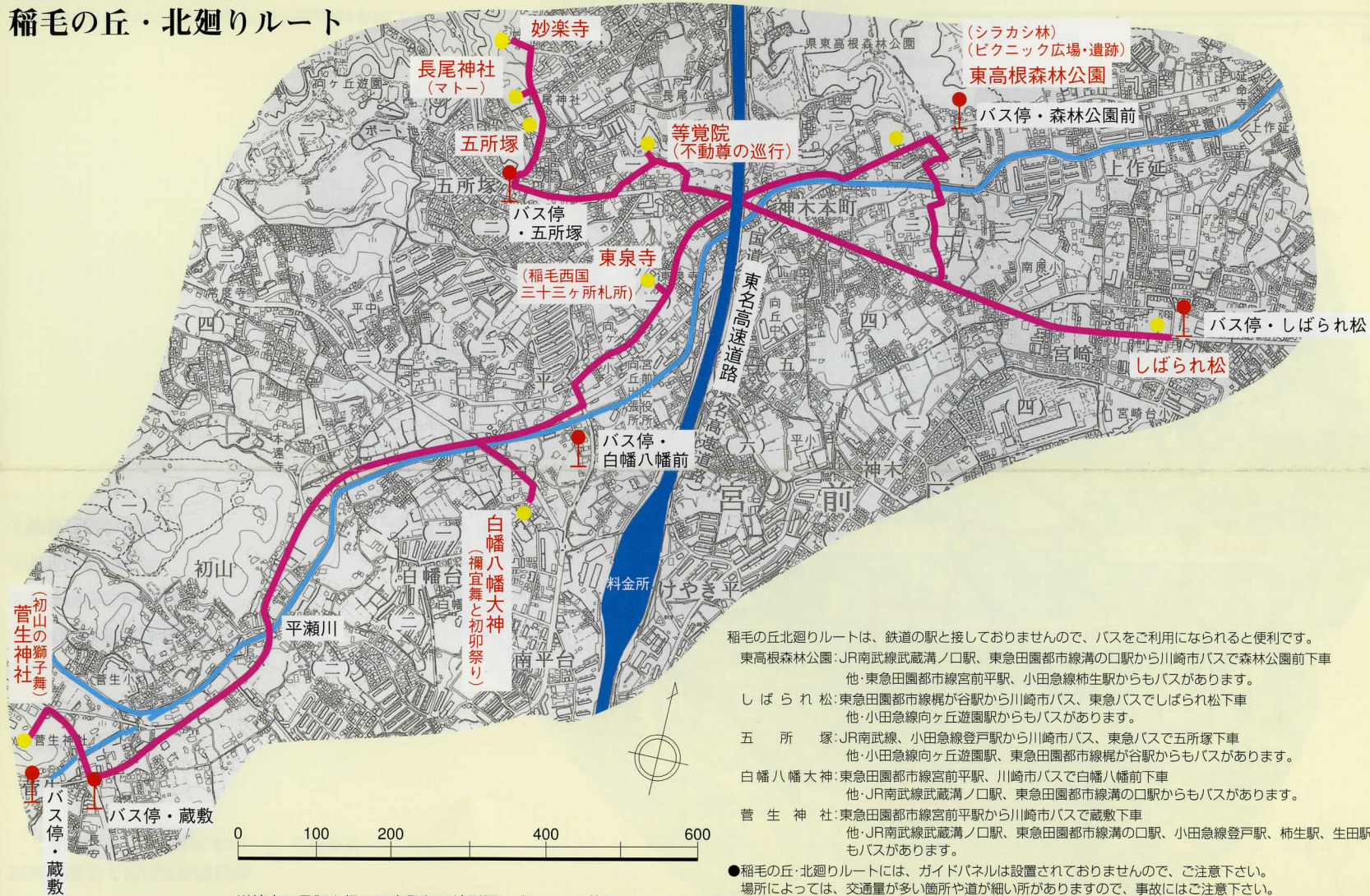
影取池は影取谷戸として地名になり、民話はいまも語り伝えられています。



アパート「かげとり荘」



# 稲毛の丘・北廻りルート



稲毛の丘北廻りルートは、鉄道の駅と接していませんので、バスをご利用になられると便利です。

東高根森林公園：JR南武線武蔵溝ノ口駅、東急田園都市線溝ノ口駅から川崎市バスで森林公園前下車  
他・東急田園都市線宮前平駅、小田急線柿生駅からモバスがあります。

しばられ松：東急田園都市線梶が谷駅から川崎市バス、東急バスでしばられ松下車  
他・小田急線向ヶ丘遊園駅からモバスがあります。

五所塚：JR南武線、小田急線登戸駅から川崎市バス、東急バスで五所塚下車  
他・小田急線向ヶ丘遊園駅、東急田園都市線梶が谷駅からモバスがあります。

白幡八幡大神：東急田園都市線宮前平駅、川崎市バスで白幡八幡前下車  
他・JR南武線武蔵溝ノ口駅、東急田園都市線溝ノ口駅からモバスがあります。

菅生神社：東急田園都市線宮前平駅から川崎市バスで蔵敷下車  
他・JR南武線武蔵溝ノ口駅、東急田園都市線溝ノ口駅、小田急線登戸駅、柿生駅、生田駅からモバスがあります。

●稲毛の丘・北廻りルートには、ガイドパネルは設置されておらず、ご注意ください。  
場所によっては、交通量が多い箇所や道が細い所がありますので、事故にはご注意ください。  
歩く際は、ゴミ等は持ち帰るように心懸け、エチケットを守るようにしましょう。また、土地の人を呼び出して、説明を求めると、迷惑な場合が多くあります。みんなの歴史ガイドルートですので、マナーを守りましょう。

川崎市の承認を得て同市発行の地形図1/20,000を使用したものです。  
承認番号 (10)川崎市指令ま計第10号)

# 稲毛の丘・南廻りルート

川崎歴史ガイドパネル所在地

📍 Aパネル 📍 Bパネル 📍 Cパネル

- ① 総合案内板
- ② 泉福寺の花供養
- ③ 馬絹の花づくり
- ④ 三ツ又の庚申様
- ⑤ 有馬不動尊の護摩焚き
- ⑥ 野菜畑から植木畑へ
- ⑦ 有馬の梨づくり
- ⑧ 影取大蛇の伝説



川崎市の承認を得て同市発行の地形図1/20,000を使用したものです。  
承認番号(10川崎市指令ま計第10号)